

学校給食の歴史

1889 (明治22)年		・山形県鶴岡市の私立忠愛小学校で、貧困児童を対象に無料で学校給食を実施。これが日本での学校給食の起源とされている。内容は、おにぎり焼き魚、漬け物であった。
1907 (明治40)年		・広島県及び秋田県の一部で給食が実施された。
1911 (明治44)年		・岩手県、静岡県、岡山県の一部で給食が実施された。
1914 (大正3)年		・東京の私立栄養研究所が、文部省の科学研究奨励金を受けて、付近の学校の児童に学校給食を実施した。
1919 (大正8)年		・6月、東京府は私立栄養研究所の援助により、東京府直轄の小学校にパンによる学校給食を開始した。
1923 (大正12)年		・10月、文部次官通達「小学校児童の衛生に関する件」で、児童の栄養改善のための方法としての学校給食が奨励された。
1932 (昭和7)年		・9月、文部省訓令第18号「学校給食臨時設置方法」が定められ、国庫補助による貧困児童救済のための学校給食が初めて実施された。
1940 (昭和15)年		・4月、文部省訓令第18号「学校給食奨励規定」により、対象を貧困児童の他、栄養不良児、身体虚弱児にも広げ、栄養的な学校給食の実施へ、内容を充実した。
1944 (昭和19)年		・6大都市の小学校児童約200万人に対し、米、みそ等を特別配給して学校給食が実施された。
1946 (昭和21)年		・1月30日、文部省体育局長通達「学校衛生刷新に関する件」で学校農園等による給食施設の普及が奨励された。 ・12月11日付け文部、厚生、農林三省次官通達「学校給食実施の奨励について」が発表され、戦後の学校給食の方針が定まった。 ・12月24日、東京、神奈川、千葉の3都県の学校で試験給食が開始された。
1947 (昭和22)年		・1月20日、全国都市の児童約300万人に対して学校給食を開始した。当時の給食は、ララ寄贈食料品によるもので、ミルク(脱脂粉乳)、トマトシチューなどが供された。
1948 (昭和23)年	川西	・1月、川西小学校で、米国の援助とユニセフの寄贈を受けて脱脂粉乳のミルク給食を開始した。
1949 (昭和24)年		・7月、保健体育審議会令が制定され、学校給食分科審議会が設けられた。 ・10月、ユニセフ(国連児童基金)からミルクの寄贈を受けて、ユニセフ給食が開始された。
1950 (昭和25)年	川西	・久代小学校、多田小学校で、脱脂粉乳によるミルク給食を開始した。いつまで続いたかは不明。
1950 (昭和25)年		・7月、8大都市の小学校児童に対して、米国寄贈の小麦粉により初めて完全給食が実施された。 ・12月、文部省から「全国学校給食週間の開催」が通知された。
1951 (昭和26)年		・2月から完全給食が全国市制地にも拡大実施された。 ・講和条約の調印にもない、給食用物資の財源であったガリオア資金(アメリカの占領地域救済資金)が6月末日でうち切れ、学校給食は危機にさらされた。これに対して、国庫補助による学校給食の継続を要する運動が全国的に展開された。
1951 (昭和26)年	川西	・サンフランシスコ講和条約の調印により脱脂粉乳の援助が打ち切られてミルク給食が中断した。
1952 (昭和27)年	川西	・川西小学校で、ミルク給食が再開した。1週間に3回実施、入荷する物資は脱脂粉乳と砂糖だけであった。育友会で当番制をとり、割り当てられた人が準備調理にあっていた。いつまで続いたかは不明。 ・久代小学校で、校舎の移転とともに、ミルクとみそ汁の補給給食が始まった。
1953 (昭和28)年	川西	・多田小学校で、ミルク給食が再開した。80日間の予定で、新田地域より各家庭4~5名の協力をあおいだ。
1954 (昭和29)年		・6月3日、第19国会で「 学校給食法 」が成立し、交付された。同年中に学校給食法施行令、施行規則、実施基準等も定められ、学校給食法の実施体制が法的に整った。
1954 (昭和29)年	川西	・久代小学校で、給食を育友会の当番制で始めた。(内容は不明)
1956 (昭和31)年		・2月10日、「米国余剰農産物に関する日米協定」の調印により、学校給食用として小麦10万トン、ミルク7500トンの寄贈が決定された。 ・3月30日、学校給食法の一部が改正され、同法が中学校にも適用され、準要保護児童に対する給食費補助も規定された。 ・6月20日、「夜間課程を置く高等学校における学校給食に関する法律」が公布された。
1956 (昭和31)年	川西	・4月、久代小学校で、PTAが、市に専属の調理員の配置を要望し、市職員の調理員が配属された。川西市初の完全給食が始まった。
1957 (昭和32)年		・5月20日、「盲学校、ろう学校及び養護学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律」が公布された。
1957 (昭和32)年	川西	・多田小学校で、試験的に完全給食が始まった。地域から保護者が4~5名ずつ順番に出てきた。
1960 (昭和35)年	川西	・12月7日、東谷小学校で、給食実施について、育友会・学部・自治会長三者の懇談会を開いた。 ・12月9日、東谷小で、育友会臨時総会を開催し、学校給食実施(経費は地区負担)へふみきる決意を固めた。
1961 (昭和36)年		・へき地のミルク給食施設設備費及び夜間定時制高等学校夜食費に対する補助制度が設けられた。 ・12月1日、学校給食15周年記念式典・大会が開催された。
1961 (昭和36)年	川西	・4月、多田小学校で、市職員の調理員が配属され、完全給食が始まった。 ・10月31日、東谷小学校で、給食実施に関する工事(給食室・水道・電気)がほぼ完了した。器具・備品等も一応完備した。 ・11月6日、東谷小学校で、完全給食開始。 ・11月8日、東谷小で、給食招待日、市長、助役、教育委員会、市議、自治会長等を招き試食会を実施した。
1962 (昭和37)年	川西	・11月、黒川小学校で完全給食を開始した。
1963 (昭和38)年	川西	・10月28日、川西小学校、川西中学校、多田中学校、東谷中学校でミルク給食を開始。脱脂粉乳に代わり、ビン入りの混合乳が納入されるようになった。
1964 (昭和39)年		・8月、文部、農林次官通達「学校給食牛乳供給事業の実施について」が下され、学校給食への牛乳の本格供給が始まった。
1964 (昭和39)年	川西	・4月、川西北小学校で、完全給食を開始した。
1966 (昭和41)年		・高度へき地学校の全児童生徒に対し、全額国庫補助により、パン・ミルクの無償給食が実施された。
1967 (昭和42)年	川西	・1月、川西小学校、加茂小学校で、共同調理場方式で完全給食を開始した。以後、小学校・養護学校では、開校と同時に完全給食が実施されるようになった。
1970 (昭和45)年		・学校給食における米飯、米粉混入パン、米加工品の利用実験が開始された。
1972 (昭和47)年		・沖縄の本土復帰にもない、学校給食関係予算が計上された。
1975 (昭和50)年	川西	・4月、川西小学校で、給食施設を整備し、完全給食を単独校調理場方式に移行した。加茂西小学校で、共同調理場方式で完全給食を開始した。
1976 (昭和51)年	川西	・4月、学校給食制度に米飯が正式に導入された。当時の代表的な献立としては、カレーライス、牛乳、スープ、果物などがあげられる。 ・川西市学校給食会の設立(物資の安定供給から給食費徴収、業者支払に至るまでの業務を一本化させるため) ・米飯給食を月1回の自校方式で開始した。当初は、冷凍チャーハン、続いてアルファ化米での実施であった。
1977 (昭和52)年	川西	・精白米を使用していた米飯給食を開始した。
1988 (昭和63)年		・児童生徒数の減少によって生じた余剰教室等をランチルームに改修する事業への補助金が文部省に予算化された。
1989 (平成元年)		・11月、学校給食100周年記念大会が開催された。食堂やランチルームの整備が進み、学校給食にもバイキング方式など選択できる食事が普及し始めた。
1995 (平成7)年	川西	・文部省は、阪神・淡路大震災に際し、兵庫県と県下の市町に対して、学校給食施設を活用した炊き出しの協力要請を行い、66市町で約60万食の炊き出しを行った。 ・1月17日~2月12日、震災による市内の避難者の一部に対して、川西小学校の給食施設を使用して、炊き出し弁当の調理を行った。プロパンガスを使用した施設のため、安全確認後、1月17日より開始した。その間の市内全校での学校給食は、牛乳・パン・果物・缶詰等の簡易給食を実施した。 ・2月16日、全校で、完全給食を再開した。
1996 (平成8)年		・腸管出血性大腸菌O157による食中毒事故で、児童が死亡するなど、各地で大きな被害が出た。
1997 (平成9)年	川西	・加茂小学校と加茂西小学校が統合、新・加茂小学校としてスタートした。校舎は、加茂西小学校を使用するが、給食施設は新たに建設し、単独校調理場方式として実施することになった。これにより、加茂給食共同調理場が廃止された。 ・川西小学校の校舎改築工事がスタート。その間、旧・加茂小学校を川西小学校として使用、給食は、廃止となった加茂給食共同調理場の施設を使用した。
1998 (平成10)年	川西	・10月、多田小学校、東谷小学校の給食施設をドライシステム化と同時に炊飯拠点校として整備する工事が始まった。その間、多田小の給食は陽明小で、東谷小の給食は緑台小を使用して調理を行い、専用トラックで配送して実施した。 ・川西小学校の給食施設もドライシステム、炊飯拠点校として整備中。
1999 (平成11)年	川西	・1月、川西小学校の新校舎の供用開始、ドライシステムでの給食調理を開始した。 ・4月、多田小学校、東谷小学校のドライシステムの調理施設供用開始、川西小学校とあわせてこの3校が炊飯拠点校としても供用を開始した。これにより、米飯給食の回数が週1回になった。
2004 (平成16)年	川西	・9月、久代小学校、緑台小学校、桜が丘小学校の3校に炊飯設備を整備し、久代小と緑台小を準拠点校として供用開始。炊飯設備設置校が6校となった。これにより、米飯給食の回数が週1回から週2回に増えた。
2005 (平成17)年		・食育基本法施行
2006 (平成18)年	川西	・9月、加茂小学校、多田東小学校、牧の台小学校、北陵小学校の4校に炊飯設備を整備して供用開始。炊飯設備設置校が10校となった。これにより、米飯給食の回数が週2回から週3回に増えた。
2009 (平成21)年	川西	・「 学校給食法 」の改正 ・「川西市学校給食アレルギー対応マニュアル」を作成、運用を開始。本マニュアルにもとづく、「卵の除去食」を開始。 ・「川西市学校給食費未収金対策要項」を作成、運用を開始。
2010 (平成22)年	川西	・9月、川西北小学校、明峰小学校、曙明小学校、清和台小学校、清和台南小学校、けやき坂小学校の6校に炊飯設備を整備して供用開始。全校に炊飯設備が設置された。これにより、米飯給食の回数が週3回から週5回に増えた。